

地域の人々とともに、
まちを元気に

志摩市で活動する地域おこし協力隊が、地域活性化のための活動や

地域が抱える課題の全体像を理解して人々の考えも深まり、協力隊員が育っている。

地方での移住者受け入れを
スムーズに進める制度

地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市地域からの移住者を「地域おこし協力隊員」として任命し、農業・漁業への従事、地域の魅力PRなど、さまざまな地域協力活動を行いながらその地域への定住・定着を図る総務省の取り組み。

治志さん（東方音からじせき）の退任式が開かれた。「志摩に来て生活環境も変化し、さまざまな苦労もあつた中、協力隊としての責務を果たしていただきました。そのまま力も衰減して虫立、

して独立したいと励んでいた。またイチゴは初期投資の掛かる作物。いきなり農機具を揃えてスタートするよりこの制度を活用し学んだ方がメリットが大きい。

きんこの原料となる隼人芋を育てるMeyさん（2年目・岐阜県から移住）は、この特産品に惚れ込み、志摩市にやつてきたという。志摩市農林課が開催する「きんこ塾」に、岐阜から1年通った経緯もある。「志摩のきんこが全国で一番。辞める農家さんもいて後継者不足と聞き、この特産品を残し

的矢で暮らしています」と志摩市水産課の谷川原利維さん。協力隊員は基本的に、就労する地域で暮らす。地域活動などにも参加し、犬塚さんは的矢地区でも頼もしい存在となつてゐるようだ。

現在志摩市で活動中の協力隊には、カキ養殖、イチゴ農家、きんこ芋（干し芋）農家に各1人、計3人の協力隊員がいる。今後、渡鹿野島の地域活性化に取り組む協力隊員が着任予定。高齢化している第一次産業での活動を3人に聞いた。

た空き家を活用して家族と暮らしている。カキ養殖業者は地元に8軒、そこへ協力隊員が加わって合計10軒となつたが、ピーク時は30軒ほどあつたという。高齢化や後継者不足は大きな問題で、自治会からの要望を受け2人が就任し、的矢湾のベテラン漁師に師事。協力隊員という同志がいれば心強いこともあつただろう。軌道にのるまで協力隊員としての収入があり、海での仕事を探す人にとって、いいチャンスだ。大阪時代は営業マンだった寺口さんは、チヌ釣りが好きで恋慕した。5時すぎに海に

けれど今は「いても釣りができる」と、趣味も生活も志摩なりの過ごし方に変化している。

着任後、すぐに自分の筏を所有した。「夏場の岩カキは3年育てないといけない。その筏だけ自分の中のものとして組ませてもらいました」。それは、3年後の自立に向けて協力隊員としての収入を得ながら自分で養殖したカキを出荷して準備をしていくための配慮からだ。寺口さんが不安に感じているのは海の状態。今季で3回目の水揚げを経験するが、海の厳しさを感じている。「温暖化でしょうかねえ。養殖といっても海に影響されるので、収入が安定しているわけではありません」と、来年4月からの自立に向けて、これから

イチゴ農家として従事する谷川原真那さん（2年目）は、仕事で県外へ出ていたが農業に興味があり、Uターンのタイミングで応募を知り、地元へ戻るきつかけとして着任した。育てるのは志摩市特産の「レッドパール」。この品種を栽培しているJAの阿児イチゴ部会の生産農家は現在3軒しかいない。イチゴづくりで大切なのは病気にかからないための管理。生きものですから毎日お世話しないと育つていかない。油断すると病気が出てしまいますが、収穫は楽しいです」と谷川原さん。常に一本一本を観察して、実になる喜びを実感へ、学んだことを話す

漁業に農業に、夢を持つて
取り組む協力隊のメンバー

す。資源を活用したまちおこしで活性化につながれば」と地方創生の可能性を感じている。

市の職員が中間役となり地元と協力隊をつなぐ

後継者育成には地域のフォローが欠かせない。農業に関しては「JAの施設内で研修することでほかの事業者とのつながりもできます。イチゴは長沢の試験場で、隼人芋は国府の大きい農家で研修を受け、そのサポートは大きい」と農林課の池内健さん。総合政策課の中村紋子さんは

市の職員が中間役となり
地元と協力隊をつなぐ

けど今はいつでも釣りができる」と、趣味も生活も志摩なりの過ごし方に変化している。

「地域の人々は、住まいの手配をするなど地域活動をとおして協力隊をサポートをしてくれています」と受け入れ体制に感謝する。協力隊の活動をPRするインスタグラムも開設し、広く閲覧を呼びかけている。「移住の相談はかなりあります。自分の望む働き方や環境にマッチすれば、ぜひ利用してもらいたい」と中村さん。地方で仕事を立ち上げたい人にとっては、助走期間を支えるありがたい制度だ。

A photograph of three individuals wearing white face masks and lanyards with name tags. From left to right: a woman in a light beige short-sleeved shirt; a man in a dark blue polo shirt; and another man in a light-colored short-sleeved shirt. They are standing against a plain, light-colored wall.



左から志摩市総合政策課の中村紋子さん、水産課の谷川原利維さん、農林課の池内健さん。協力隊メンバーを側面からサポートする

info

志摩市阿児町鵜方3098番地22
TEL:0599-44-0205 FAX:0599-44-5252

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

[https://www.instagram.com/
shimashikyoryokutai](https://www.instagram.com/shimashikyoryokutai)

